

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 未知の主体を説得するためのアルゴリズムの研究

2. 個人研究者名

藤井 海斗（国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 助教）

3. 事後評価結果

ベイズ的説得に関するアルゴリズムの研究を行った。

当初の計画については海外の他の研究者により先行されてしまったため、計画を変更することになった。そこで、受け手が組合せ的な行動をとるベイズ的説得について、モデルの提案を行い、アルゴリズムの設計を行った。いくつかの仮定の下で近似解を得るのが NP 困難であるという理論的限界を示した。また、ある設定において、多項式時間アルゴリズムを設計するための十分条件を得た。ベイズ的説得は経済学的に重要な概念であり、商品の推薦やカーナビ等の実社会への応用も期待されるものの、情報学の観点からの理論的研究はほとんど行われていなかった。今回の研究は情報学のみならず経済学等の周辺分野においてもインパクトを与えるものと思われる。

今後はこれらの研究を進めるとともに、コロナ禍後には海外との研究者とも積極的に交流を行って、組合せ最適化の知見を活かした研究を進めることが期待される。